高畠町立小学校の再編に向けた意見交換会　記録

１　開催概要

日　時	令和８年９月１４日（月）午後７時～午後８時４０分
会　場	高畠町役場　大会議室
対象・参加者	町民
参加人数	**参加者１１名**（事前申込１２名、当日申込３名、欠席４名） 教育長、事務局４名
主催・事務局	高畠町教育委員会　教育総務課

２　意見交換の記録

（１）望ましい教育環境

意見交換の視点：これからの子どもたちに、どのような学校生活を送ってほしいか。

意見１	「子どもは宝」という認識を共有した。
意見２	これまでは、各地区１校で学校運営・教育を行ってきた。「どう子どもたちを育てたいか」を話す必要がある。校舎の数に依存しない学びをどう作るか。公教育の在り方・ハード面の具体的な情報が知りたい。意見交換会で出された意見・まとめた結果を今後どう利用するか分かるとより良いと思う。
意見３	二井宿地区に住んでおり、学校の規模については、懸念している。現在中学生の子どもは、二井宿小でのびのびと学校生活を送り、中学校でも気後れすることなく過ごしている。しかしながら、児童数が一層減っているところを見ると考えてしまうところがある。一番下の子は、友人関係を充実させてあげたいと思う。

（２）大切にしてほしいこと

意見交換の視点：今の学校の良さでこれからも残してほしいこと、再編を考える上で心配なこと。

意見１	抽象的な意見で申し訳ないが、昔は、丸みをもって子どもを見ていたように感じる。丸いから、どの方向からも見落とすことなく子どもを見守ることができた。今は、注意点や色んな制限が多く、子どもにとって四角いような環境、全てを見守れていない環境になっているのではと感じる。

意見２	他の参加者と話をした時、地域との繋がりという言葉がでた。地域との繋がりが大切・大事という話が一貫して出た。学校教育と社会教育、一体とならなければならないと思う。学童も含めて、子どもを見守れる体制を作りたい。
意見３	今の子どもたちは、色んなことしている。教育キャンプも規模が縮小しているように感じる。交流もかねて、例えば和田地区と屋代地区で共同開催する等、やり方を工夫できるのではないかと思う。そういった交流があれば、再編を見据えての流れが汲みやすくなるのではないか。

（３）通学・施設・放課後

意見交換の視点：再編を考える上で必要な配慮（通学、学校施設、放課後児童クラブ等）。

意見１	通学については、子どもたちの安心・安全が一番である。通学距離についてもバスに乗れる人数の関係で、キロ数の想定等が難しい。通学バスを利用する場合であっても、自宅から停留場まで距離がある場合もある。クマの問題もある。通学バスが来るまでの地域での見守り。この問題も難しい問題だが、地域の中で話し合うことによって解決策もありそうである。 学校施設については、待ったなし！危険な状況であり、資料の写真にもあるように机もささくれ立っている。統合となれば、ある程度の国からの補助金等も考えられるが、現在のような日常管理となれば、町での財政負担となる。もし今後廃校になった場合は、避難所としての利活用方法について町民の方と協議必要であると思う。 統合になれば、学校から自宅まで距離が遠くなる子どもが増えると思う。学童については、子どもが学校から歩いて行ける距離にあることが良いのではないかと思う。現在も学童に移動する際、国道を横断する子どももいる。地域の方、保護者の方と意見を交換すれば、学童についても良い解決策があると思う。
意見２	放課後、みんなで遊んだ記憶、放課後こそ地域と繋がれるチャンスだと思う。地域の人が関われる環境、今後も配慮して進めて欲しい。何をもってしても、子どもたちの安心安全が第一、通学バスに乗りたいと言った子どもが全員乗れるようにできれば。 小学校は地域の中心。色んな学びの環境であって欲しい。
意見３	通学の点で、児童数が減ってきていることを鑑みれば、できうることなら、全員が通学バスで登校できることが望ましい。各地域からの子どもの通学を安全にできればと思う。現在も各地区交通安全協会を中心に、子どもの見守りを行っている。子どもの見守りについては、やはり地域を主に考える必要がある。
意見４	皆さんと奈良県天理市の学校３部制について、情報共有がしたい。天理市では、少子化に伴って学校の統廃合を行い、小学校に公民館などの機能を持たせる「学校３部制」の仕組みを令和６年度から導入している。 ・第１部　平日日中　　本来の子どもたちの教育の場 ・第２部　夕方放課後　授業終了後に子どもたちを見守る学童保育などの場

	・第３部　休日や夜間　地域住民らが多様な活動を行う公民館としての機能 第２部、第３部は町や教育委員会が責任を持つ制度である。高畠町で考えれば、例えば、現在の公民館施設が学校になりうる可能性があるなぁとも思う。「子どもをどうしようか」「今不登校がどうなっているのか」「学校はどうあるべきなのか」。学校に行く理由って何だろうとも考えます。教科を教えるのが学校なのか。子どもたちの生きる力や選択する力は、以前であれば地域で育んでいたと思う。今は、こういった子どもたちの力も学校に求められている。地域は、地域の責任を放棄しているではないかとも考える。地域の大人が誰でも子どもたちの先生になり、地域の大人もいろんなことを学んでいくことが大事と考えている。不登校の子の支援もある。知識を得るだけが学校であれば、オンラインの授業をもって出席となっても良いのではないか。

（４）地域とのつながり

意見交換の視点：学校と家庭、地域とのつながりを、これからどのように築くとよいか。

意見１	地域とのつながり、地域って何だろうと改めて考えました。身近な人や自治会、親が連れて行ってくれる集まり、いろんな人がいるところと触れ合う機会をなくしてはいけないと思う。周りの人との関係性、その中で自分がいるという認識、学校にいる時間が長くなる。バスで自宅に帰るだけ、学童にいて常に生活しているところに帰る機会が夜だけとなれば、周りの大人が子どもに関わる機会は減っていく。小学校以外の世界で大人が関わらないと子どもが育たない。登校の見守りをしてくださる大人。日常の中で学ぶこと成長すること。あいさつ「おはよう」「ありがとう」意識的に作り出す必要がある。子どもが学ぶ場所は、学校だけでない。学校以外の世界の中で育つ必要がある。地域との繋がりを作らなくてはならない。
意見２	今の学校は少人数である。学校に行く機会の無い人がいる。ますます関係が希薄になる。昔は、学校の先生が地域に入って、地域懇談会をしていたこともあった。地域とのつながり、町の良さ・土地の良さを伝えていくこと大事である。学校でできないことを、関わる人・ボランティアを増やして、学校に行く敷居を低くすることが大事であると思う。
意見３	子どもたちが通う学校に行っていないなぁと改めて感じた。学校という現場が分からないと何をすればよいか分からない。地域から学校に関わることができる。どんなに人数が少なくなっても、子どもを大切にしたい。

（５）その他

意見交換の視点：上記以外の意見、質問、要望等。

意見１	５０年前に子育てをした。基本的には家庭の中で、親子の関わりがあることに感謝する

	必要があると思う。地域の関わり方。やはり子育ては家庭であり、基本は親子の関係であると思っている。再編を絶対して欲しい。じっくりと、時代を踏まえてお願いしたい。

３　主な質問と事務局回答

質問・確認事項	事務局からの回答・説明
特になし	

４　備考

なし